

大谷暢顯門首の歩み

真宗大谷派第25代大谷暢顯門首は、本年6月30日をもって門首の地位を退任されることとなりました。1996(平成8)年の門首就任からこれまでの間、24年という長きにわたり、「真宗大谷派宗憲」の精神のもと、門首としての職責を果たされました。今回は、私たちが代表して真宗本廟(東本願寺)の宗祖御真影のお給仕と仏祖崇敬の任にあたり、真宗の教法を聞きつづけてこられた大谷暢顯門首の歩みを、写真とともに振り返ります。



大谷暢顯門首のことば

「宗憲に則り、本廟崇敬の務めを尽くし、いよいよ深く真宗の教法を聞きつづけて、同朋各位の信託に心えんと、門首継承式において宗祖親鸞聖人と皆さまにお誓い申し上げてから、約24年の長きにわたって、門首として歩ませていただくことができました。その間、蓮如上人、宗祖親鸞聖人の御遠忌法要や、両堂等御修復という歴史的事業にも出遇うことができ、また東日本大震災をはじめ、頻発する災害の中で悲しみをともにいたしました。いついかなる時も、皆さまとともに開法し、皆さまとの交わりに支えられて、新しい宗憲に定められた門首としての務めを何とか今日まで果たすことができたと仏祖の恩をあらためて感じております。今日までのお支えに、心から深く感謝を申し上げます。私たちにまで綿々と受け継がれてきた宗祖親鸞聖人のお念仏のみ教えが、未来永劫にわたって相続されていくことを心から念願しつつ、生涯開法の路を辿らせていただきたいと思います。真宗大谷派第25代門首 大谷暢顯(釋淨如)」

2000(平成12)年1月

公益財団法人日本仏教会会長に就任

※2002年1月まで

2003(平成15)年

宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌の特別記念事業として「両堂等御修復」が始まる

2008(平成20)年12月末

御影堂御修復完了

2011(平成23)年3月～5月

「被災者支援のつどい」

「宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌法要」厳修



御影堂瓦葺き納め式(2008年5月)

- 1930(昭和5)年3月27日 第24代大谷光暢門首(当時法主)の三男として誕生
- 1966(昭和41)年3月9日 得度 同年5月からは鍵役に就任
- 1969(昭和44)年4月 「開申事件」がおこる
- 1980(昭和55)年11月 法主側と内局側において「即決和解」が成立
- 1981(昭和56)年6月 「真宗大谷派宗憲」改正
- 1996(平成8)年7月31日 真宗大谷派第25代門首に就任
- 1996(平成8)年11月21日 「門首継承式」執行



全国から集った同朋が見守る中、門首は御真影の前で、新宗憲に定める「門首」としての誓いを表す。約1万人の参拝者とともに同朋唱和によって「正信偈」が動められ、新しい宗門の歴史の始まりが内外に発信されました。



継承式終了後、渋滞で遅れて到着した参拝者へ、御影堂向拝にて挨拶する姿も。



就任後のインタビューにて



法要期間中は全ての法要に出仕され、訪れたおよそ35万人の同朋とともに蓮如上人の遺徳を讃えました。



1998(平成10)年4月 「蓮如上人五百回御遠忌法要」厳修

2011(平成23)年11月

「御正當報恩講」厳修・「御本尊動座式」執行

2016(平成28)年3月31日

「御本尊還座式」を執行

御正當報恩講厳修後、阿弥陀堂、御影堂門の御修復がなされ、2016年、御修復事業が完了となりました。阿弥陀堂御修復後には、御本尊が阿弥陀堂にお戻りになる「御本尊還座式」が執り行われ、多くの僧侶・門徒が、手を合わせて列を見守る中、御本尊を中心にした還座列を門首が先導されました。



宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌を機縁として、2003年から真宗本廟両堂等御修復事業が宗門を挙げて推進され、いよいよ大法要をお迎えする直前となった2011年3月11日、東日本大震災が発生しました。地震や津波によって多くの寺院や門徒宅が被災された中、予定されていた第1期法要は「被災者支援のつどい」として開催。また、その後の第2期、第3期法要も被災者の方々に思いを馳せつつ、多くの参拝者とともに宗祖のご遺徳を偲ぶ御遠忌法要が厳修されました。



門首夫妻は、御遠忌法要後、直ちに東日本大震災で大きな被害を受けられた寺院をお見舞いし、住職・門徒を励まされました。

2016(平成28)年11月

「真宗本廟両堂等御修復完了奉告法要」厳修

2019(令和元)年8月

門首退任の意向を表明

退任の意向を表明された後、11月の報恩講では、参拝者の皆様へ直接挨拶をされました。



2019年 報恩講での挨拶



大阪教区にて



執務の様子



高山教区にて



南米開教区での帰敬式

大谷暢顯門首は、就任から今日に至るまで、新宗憲に願われた「門首」として、毎朝のお勤め・お給仕を欠かすことなく、その職務を真摯に務められました。また、海外の開教区も含め遠近を問わず各地への御親修等にも赴き、広く全国の同朋との交わりを深めてこられました。

大谷暢顯門首御扉閉・大谷暢裕新門首御親開について

門首の就退任にあたり、大谷暢顯門首の退任日である6月30日と大谷暢裕新門首の就任日である7月1日には、下記の儀式が執り行われます。

6月30日(火) 大谷暢顯門首御退任動行(御扉閉)15:30～16:00
両堂でのお勤めの後、門首が御真影の御厨子の扉を閉じられます。

7月1日(水) 大谷暢裕門首御代始(御親開)7:00～
新たに就任される大谷暢裕新門首が、御真影の御厨子の扉を開けられた後、晨朝法要が勤まります。

